

基本方針 1 本との出会いを通して、市民の課題解決を支援する図書館 ー資料・情報提供機能

○評価項目 ① 貸し出しと閲覧サービスの充実

自己評価	C
------	---

外部評価	C
------	---

評価指標	取組の方向	H32 年度 目標	H29 年度 目標	H29 年度 実績
ア：人口一人当たりの貸出冊数（たちばな号含む）	選書、PRの工夫	6.00		5.11
イ：予約数	PRの工夫	41,000		40,880
ウ：大活字本、点字資料等の受入冊数	積極的な選書	40		39
エ：外国語書籍の受入冊数	積極的な選書	20		14
オ：実利用者数	選書の工夫	17,000		14,138
カ：新規利用登録者数	選書、PRの工夫	2,300		1,922
キ：利用者アンケート 9-②（読みたい本があったか）の平均	選書の工夫	4		—
ク：資料受入冊数	予算の確保、適切な選書	14,000		12,972
ケ：たちばな号の利用者数	ステーションの位置検討	5,400		3,866
コ：たちばな号の貸出冊数	選書の工夫	35,000		25,232

・取組予定

・取組結果

たちばな号については、利用者数、貸出冊数ともに前年を上回った。また、予約数はほぼ横ばいである。

しかし、人口一人当たりの貸出冊数、実利用者数、新規利用登録者数、資料受入冊数は前年を下回った。これらは、いずれも減少傾向を示している。

• 成果と課題

利用者の減少傾向が継続していることが課題である。新規利用登録者数も減少し、来館者数も減少していることから、図書館を利用したことがない住民に対する PR 活動が重要であると考えられる。

□図書館協議会からの意見

- 図書館運営に関する基礎的な数値が軒並み下がっていることは問題である。
- 図書館の基本的なサービスの自己評価が C であることは、あまりに寂しい。市民への PR 不足のほか、たちばな号の巡回方法、新刊購入の在り方、蔵書構成等を再検討し、何が利用拡大を阻んでいるのか考える必要がある。
- たちばな号が学校の休み時間帯に学校を訪問することや、運行状況 PR を学校や地域を通じて行うなど、たちばな号が小学生にさらに利用されるようにされたい。
- 市の規模にふさわしい公共図書館数が絶対的に不足している彦根市では、平均的な値の数値目標もクリアすることが難しいが、市民の協力を得る、市民の声に耳を傾けるなどして改善を図られたい。

基本方針 1 本との出会いを通して、市民の課題解決を支援する図書館 ー資料・情報提供機能

○評価項目 ② レファレンスサービスの充実

自己評価	C
------	---

外部評価	C
------	---

評価指標	取組の方向	H32 年度 目標	H29 年度 目標	H29 年度 実績
ア：レファレンスサービスの件数	PR の工夫	450		392
イ：職員研修の実施回数	職員研修の充実	6		2
ウ：外部研修（県立図書館等主催を含む）の参加者数	各種研修への積極的な参加	15		15

・取組予定

・取組結果

レファレンスサービスの件数は年によって差がある。

また、職員研修は 4 回のみの開催となり、レファレンス技能を高めるような研修は実施できなかった。

外部研修の参加人数は、前年並みとなった。

・成果と課題

レファレンス件数のカウント方法について、徹底をする必要があると考えられる。

また、毎月第 4 木曜日の休館日を利用して、全体ミーティングを行っているが、この機会を利用して研修を行う必要がある。職員が相互に講師役を務めることにより、講師役の職員のスキルアップにもつながると考える。

外部研修への参加は費用と時間が必要であるため、人数の増は難しいが、研修に参加したものが確実に伝達を行うことにより、研修の効果を最大限生かしたい。

□図書館協議会からの意見

- ・レファレンスサービスを行う図書館職員（司書）の質的向上が必要であるので、研修の充実に取り組まれない。

平成 29 年度 1-②

- レファレンスサービスの充実のためには、レファレンスサービスについて、市民への PR が  
必要である。

基本方針 1 本との出会いを通して、市民の課題解決を支援する図書館 ー資料・情報提供機能

○評価項目 ③ 暮らしに役立つ情報の提供

自己評価	B
------	---

外部評価	B
------	---

評価指標	取組の方向	H32 年度 目標	H29 年度 目標	H29 年度 実績
ア：テーマ展示の実施回数	PR の工夫・YA コーナーの充実	20		17
イ：中高生の利用者数	魅力的なテーマ 展示の実施	1,000		882

・取組予定

・取組結果

テーマ展示の実施回数は昨年度より減少した。また、中高生の利用者数も減少傾向が続いている。

・成果と課題

テーマ展示の内容によっては、好評なため途中で本を追加したものもあった。今後も、さまざまなテーマで展示を行っていききたい。

全体の利用者減に合わせて、中高生の利用者数も減っている。もともと、利用者数が少ない層であるので、学校と連携するなどして利用者増に取り組みたい。

□図書館協議会からの意見

- ・昔の図書館から考えると、非常に良くなった。展示もかなり工夫されていると思う。
- ・目標設定が、あまりにも低すぎる。豊富な蔵書を生かすためにも、テーマ展示をさらに充実されるように取り組まれないか。
- ・中高生の利用増には、自習室等の設置が必要ではないか。

基本方針 1 本との出会いを通して、市民の課題解決を支援する図書館 ー資料・情報提供機能

○評価項目 ④ ホームページ等による情報の発信

自己評価	A
------	---

外部評価	B
------	---

評価指標	取組の方向	H32 年度 目標	H29 年度 目標	H29 年度 実績
ア：お知らせ、行事案内等のホームページ掲載回数	積極的な情報発信	60		44
イ：広報紙の掲載回数	積極的な情報発信	70		67
ウ：報道機関情報提供の回数	積極的な情報発信	12		9

・取組予定

・取組結果

ホームページ掲載回数は前年度を大きく上回った。また、広報紙の掲載回数は 100 周年事業を行った平成 28 年度と、ほぼ同じ回数を維持できた。

・成果と課題

ホームページシステムを更新したことにより、情報発信がきめ細かくできるようになり、ホームページアクセス数も伸びている。引き続き、ホームページでの情報発信に取り組んでいきたい。

また、広報の掲載は、事業のお知らせが主なものであるため、利用を促すような記事も掲載できるように取り組んでいきたい。

所蔵資料講演会などの開催について、報道機関に情報提供を行った。新聞掲載をされた所蔵資料講演会は満席となり、報道掲載の効果を実感した。報道に取り上げてもらえるような魅力ある情報提供を行っていきたい。

□図書館協議会からの意見

- ・ホームページはリニューアルされ見やすくなったが、もっと楽しく、みんなが見たいなというホームページにする工夫をされたい。

平成 29 年度 1-④

- SNS の利用について検討されたい。
- 広報紙への掲載を増やして図書館だよりの掲載をするなど、図書館の PR に努められたい。

基本方針 2 歴史あるまちとして、郷土の文化を守り伝える図書館 ー資料収集・保存・支援機能

○評価項目 ① 資料の収集と受入

自己評価	C
------	---

外部評価	C
------	---

評価指標	取組の方向	H32 年度 目標	H29 年度 目標	H29 年度 実績
ア：郷土資料の受入冊数	適切な選書、寄贈の呼びかけ	700		551

・取組予定

・取組結果

昨年度の半分程度の受入冊数であった。

・成果と課題

寄贈冊数が減ったことおよび保存用の冊数を抑えていることが、受入冊数減の理由となった。また、平成 28 年度は直虎関連の書籍が多く出版されたことから、受入冊数が増えていることも理由となっている。

寄贈の呼びかけ、行政資料の収集などに取り組みたい。

□図書館協議会からの意見

- ・冊数で計れるものではないが、職員が幅広く郷土資料への目配りができるかが重要である。



基本方針 2 歴史あるまちとして、郷土の文化を守り伝える図書館 ー資料収集・保存・支援機能

○評価項目 ② 資料の保存・活用

自己評価	C
------	---

外部評価	C
------	---

評価指標	取組の方向	H32 年度 目標	H29 年度 目標	H29 年度 実績
ア：資料の展示・公開回数	資料の整理	1		0
イ：古文書・貴重資料の調査・研究の対応回数	職員研修の充実	100		64
ウ：舟橋聖一顕彰文学賞の応募数	PR の工夫	400		130

・取組予定

・取組結果

資料の展示・公開は行えなかった。

古文書等の調査研究の対応回数も減となったが、昨年度が突出して多かった。

舟橋聖一顕彰文学賞については、昨年度から応募総数は増加したが、高校生の部の応募が 0 件であった。

・成果と課題

資料の公開には、前提として資料の整理が必要であるため、文化財部の協力を仰ぐこととし、意見交換を行った。

舟橋聖一顕彰文学賞については、高校生の部の応募が無かったため、対象となる高校生に効果的に賞を PR する方法を検討したい。

□図書館協議会からの意見

- ・舟橋聖一顕彰文学賞の応募は、応募開始時期を早めるなど、募集時期の工夫が必要。
- ・貴重な資料の保存、デジタル化に取り組まれない。
- ・保存されている資料・データの公開など、貴重な資料を活用されたい。
- ・研究者、学芸員に聞くことも良いが、自由に図書館で公開していけばよい。

基本方針 3 子どもの健やかな成長と豊かな心を育てる図書館 ー学びの場の提供

○評価項目 ① 子どもの読書活動の推進

自己評価	B
------	---

外部評価	C
------	---

評価指標	取組の方向	H32 年度 目標	H29 年度 目標	H29 年度 実績
ア：学校への団体貸し出し数	学校への PR、 貸し出しリスト の作成	2,500		1,512
イ：読み聞かせ、ブックトークの参加者数	実施の検討・準備	100		72
ウ：未就学児の登録者数	ブックスタート での PR	1,000		804

・取組予定

・取組結果

学校への団体貸し出し数は減少傾向にある。

主催おはなし会以外での読み聞かせや、ブックトークは実施できていない。

未就学児の登録者数は増加傾向にある。

・成果と課題

学校への団体貸し出しについては、特に取組が行えていない。まずは、学校単位で図書館から本を借りることができるということを周知する必要がある。

未就学児の登録者数増は、ブックスタートでの PR も一因となっているものとする。引き続き、ブックスタートでの PR を行うとともに、おはなし会などの充実に努めていきたい。

□図書館協議会からの意見

- ・図書館と学校とが連携を深めるために話し合う機会を持ち、お互いの取組を共有できれば、子ども読書活動がもっと活性化していくのではないかと。
- ・図書館職員（司書）が図書館外へ出向くことが必要である。
- ・年齢、学年ごとにお勧めの本を紹介するなどの取組をされたい。

平成 29 年度 3-①

- 読み聞かせの効果は高い。ボランティアと図書館との連携が必要である。

基本方針 3 子どもの健やかな成長と豊かな心を育てる図書館 ー学びの場の提供

○評価項目 ② 子育て関係機関・団体との連携

自己評価	B
------	---

外部評価	B
------	---

評価指標	取組の方向	H32 年度 目標	H29 年度 目標	H29 年度 実績
ア：読み聞かせボランティア数	ボランティアの育成	30		21
イ：ブックスタート事業の推進	ブックスタートでの PR・利用者の開拓	—		—

・取組予定

・取組結果

読み聞かせボランティア数は、やや減少した。

・成果と課題

読み聞かせボランティアは、現在、活動の場がブックスタートのみであり、人数が充足していることから 29 年度の募集を行わなかったため、自然減となった。今後、ボランティアを募集するに当たっては活動場所の検討等を行う必要がある。

□図書館協議会からの意見

- ・ 幼児期の子どもに身近に本をおいておけるような仕組みづくりを図書館で行われたい。
- ・ ブックスタートはボランティアが、始まった時から彦根市とタイアップして実施してきた。
- ・ 今後、ブックスタートを図書館で実施していることの成果が出てくると思っている。

基本方針 4 心のやすらぎを与える居心地の良い図書館 ー滞在型図書館の機能

○評価項目 ① やすらぎのある図書館づくり

自己評価	-
------	---

外部評価	-
------	---

評価指標	取組の方向	H32 年度 目標	H29 年度 目標	H29 年度 実績
ア：利用者アンケート 9-③（居心地）の平均点	居心地の良い空間づくり	4.0		—
イ：利用者アンケート 9-④（職員の態度）の平均点	接遇の向上	4.5		—

・取組予定

・取組結果

毎日、書棚の整理を行うとともに、委託による清掃を実施し、利用しやすい、清潔な空間となるように努めた。

また、接遇の研修も行った。

・成果と課題

利用者から何度か、職員の態度が悪い（例：嫌な顔をされた）とアンケートや市政への意見提言があった。その都度、職員には接遇について指導を行っているが、気持ちの良い対応ができるように研修に取り組む必要がある。

□図書館協議会からの意見

- ・職員に対する評価は好評を得ている。
- ・現図書館は老朽化しており、安らぎのある図書館づくりには、書架レイアウトの変更や前庭の利用、バリアフリー化の検討が必要である。

基本方針 4 心のやすらぎを与える居心地の良い図書館 ー滞在型図書館の機能

○評価項目 ② 居場所としての図書館づくり

自己評価	C
------	---

外部評価	C
------	---

評価指標	取組の方向	H32 年度 目標	H29 年度 目標	H29 年度 実績
ア：利用者アンケート 7（滞在時間）の平均	滞在時間が延びる工夫	0.5		-
イ：来館者数	魅力ある図書館づくり・利用者の開拓	240,000		189,826

・取組予定

・取組結果

来館者数は減少傾向である。

・成果と課題

新規利用者開拓を狙い、ロビーコンサートや所蔵資料講演会、リサイクル市を行った。事業単体ではそれぞれ成果があったが、集客した未利用者に図書館利用者となってもらうための工夫が必要である。

また、実利用者数は市人口の約 13%程度であるので、未利用者に対する広報を行ってきたい。

□図書館協議会からの意見

- ・アンケート調査を実施するなどして、入退館者調査や滞在時間帯の調査をされたい。
- ・自分の身近にあって、いつでも、どこでも、誰でも行ける図書館づくりを目指されたい。

基本方針 5 市民の活動・交流を通して、新たな出会いを発見できる図書館 ー活動支援機能

○評価項目 ① 多目的な活動を支える場所の提供

自己評価	B
------	---

外部評価	B
------	---

評価指標	取組の方向	H32 年度 目標	H29 年度 目標	H29 年度 実績
ア：集会室の利用回数	利用条件の整理	180		172
イ：図書館主催行事の開催数	イベント内容・ 対象の研究	11		11
ウ：学校と連携した学習と研究発表場所の提供 回数	学校との連携を 検討	3		0

・取組予定

・取組結果

集会室は、図書館関係団体やおはなし会などで、よく利用されていた。

おはなし会 4 回（共催含む）、わらべうたのつどい、所蔵資料講演会 3 回、ロビーコンサート 1 回、リサイクル市 1 回に取り組んだ。予定していたおはなし会 1 回を積雪のため中止とした。

学校との連携は把握できていない。

・成果と課題

集会室はよく利用されている。設備の維持、管理に努めたい。

図書館主催行事はおおむね好評であった。今後は、今まで来館していない市民に PR できるような行事を実施していきたい。

学校との連携ができなかったため、どのような連携ができるのかというところから考えていく必要がある。

□図書館協議会からの意見

- ・市民が図書館で、多目的な活動をしていないように思う。市民会館のように一定の条件を満たして料金を支払えばだれでも使用できるとするかは、今後の課題とされたい。

平成 29 年度 5-①

- 学校と連携した取り組みを行うには、部屋が狭いかもしれない。



基本方針 5 市民の活動・交流を通して、新たな出会いを発見できる図書館 ー活動支援機能

○評価項目 ② 図書館に関わる各ボランティア団体との連携と協力

自己評価	B
------	---

外部評価	B
------	---

評価指標	取組の方向	H32 年度 目標	H29 年度 目標	H29 年度 実績
ア：ボランティア団体との連携回数	各団体との意見 交換の実施	5		4
イ：図書館ボランティア数	各団体の活動紹 介に協力	40		21
ウ：地域文庫数	新規立ち上げ、 継続活動への支 援	15		12

・取組予定

・取組結果

ボランティア団体とおはなし会を共催した。  
地域文庫数は減少傾向にある。

・成果と課題

ボランティア団体とはおはなし会だけでなく、日常的に連絡を取り合っている。引き続き連携を図っていきたい。

地域文庫は減少傾向にあるが、平成 29 年度は、新規に立ち上げる団体の申し出もあった。予算の制約もあるが、新規の地域文庫運営者の掘り起こしとともに、既存の文庫のサポートを行いたい。

□図書館協議会からの意見

- ・連携、協力に必要な予算の確保に努められたい。
- ・ボランティアの内容や募集の PR などの広報活動に取り組まれたい。
- ・市民のボランティアと連携協力する方法の検討や、図書館側からの市民への声かけが必要。